

日本人若年女性のBMIの推移と業種別健康問題の検討

令和元年度の国民健康・栄養調査では、肥満者(BMI \geq 25kg/m²)の割合は男性で33.0%、女性で22.3%であり、やせの者の割合は男性で3.9%、女性で11.5%となっている。特に20歳代女性のやせの割合は20.7%であり、健康日本21(第二次)の目標値である20%を上回っている。また、若年女性のやせは貧血、無月経、骨粗鬆症、低体重児の出産などにつながり、本人のみならず次世代にまで影響を与えることが示されている。

海外においては若年成人のBMIの変化を追跡した先行研究がいくつか存在するが、日本やアジアの一部の先進国に特有の若年女性のやせについてはほとんど注目されていない。また、日本においても若年女性のBMIの推移や業種別の傾向について着目した研究は少ない。本研究により働く若年女性の健康問題の正確な把握を行うことは、公衆衛生の観点から対策を行う上で重要と考える。

本研究では、公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンターが保有する職域健康診断データを用いる。抄読会では、若年女性のBMIに関する先行研究や若年女性のやせに関連する疾患、使用するデータについて紹介する。

【参考文献】

1. 令和元年国民健康・栄養調査報告. 厚生労働省. 2020.
<https://www.mhlw.go.jp/content/000710991.pdf>
2. Adane AA, Shepherd CCJ, Lim FJ, et al. The impact of pre-pregnancy body mass index and gestational weight gain on placental abruption risk: a systematic review and meta-analysis. Arch Gynecol Obstet. 2019;300(5):1201-1210.